

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名:公益財団法人 愛知県国際交流協会

1. 事業の概要

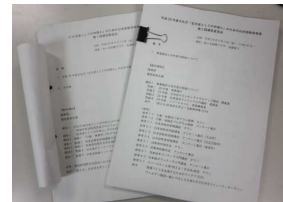
事業名称	多文化共生社会実現に向けた地域の日本語教育推進事業
事業の目的	○地域の様々な主体が連携・協働して多文化共生社会に向けた「地域における日本語教育」を推進していく基盤をつくること ○日本語教育指導に携わるボランティア等がより効果的な教室活動を実施できるようになること ○県内市町村と連携をとり、地域に必要な日本語教育のコーディネーターとしての役割を担う人材を育成すること
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	愛知県は外国人住民が東京に次いで全国で2番目に多く、100以上のおとな向け日本語教室が活動している。以前は、ブラジル人や中国人が学習者の大多数を占めていたが、近年はアジアからの住民が増えてきており、多国籍化が進んでいる。同時に、技能実習生が多く来るようになり、定住者や永住者などの割合が低くなっている。また、愛知県内でも集住地区と散在地区、日本語教室が充実している地域と不足している地域など、地域によって温度差がある。 こうした状況の中、「多文化共生の地域づくり」という認識がないまま、地域のニーズを把握せず従来型の活動を続けていたり、マンネリ化している教室も少なくない。また、ボランティアの高齢化などにより新たな担い手を育成する必要も出てきている。市町村や国際交流協会の日本語教育担当者、地域の日本語教室で活動するボランティアなどが地域の日本語教室の意義を理解し、コーディネーターの役割を果たすことで、地域の日本語教育を推進していけるよう、スキルアップを図る必要がある。
本事業の対象とする空白地域の状況	空白地域を対象とした事業は申請していない
事業内容の概要	取組1 「行動・体験型」プログラム研修の開催 「行動・体験型教室活動」の企画と実践を通して、地域の状況や日本語教室の意義を再認識し、それぞれの教室活動を振り返るきっかけとなった。また、実践活動では、地域の多様な人材と協働することにより、地域の住民に「多文化共生社会」について考えてもらう機会となった。 取組2 日本語教室実践講座の開催 ボランティア同士が、日頃の教室活動の中での課題を共有し、解決策を考えることで、ボランティア同士が教室活動を振り返り、よりよい教室活動を目指す機会となった。 取組3 成果発信報告会 市町村・市町村国際交流協会の日本語教育担当者や地域の日本語教室で活動するボランティアに向けて、今年度の事業内容を広く知ってもらうとともに、特に取組1で行った「行動・体験型」とは異なる手法の「行動・体験型」学習方法について紹介する機会となった。 取組4 日本語ボランティア入門講座の開催 新たに、地域の日本語教室で活動できるようボランティアを育成した。 取組5 リソースルーム発「使える！日本語」教室 「行動・体験型」の日本語教室をモデル的に開催することで、地域の日本語教室に向けて、そのノウハウを発信した。
事業の実施期間	平成28年5月～平成29年3月（11か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	尾崎明人	名古屋外国語大学
2	松本一子	愛知淑徳大学
3	酒井美賀	東海日本語ネットワーク
4	米勢治子	東海日本語ネットワーク
5	大池由美子	安城市国際交流協会
6	伊藤雅絵	長久手市国際交流協会事務局
7	大橋充人	愛知県県民生活部社会活動推進課多文化共生推進室
8	栗木梨衣	(公財)愛知県国際交流協会



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年6月17日(金) 10時30分～正午	1時間30分	あいち国際プラザ	尾崎明人、松本一子、酒井美賀、米勢治子、大池由美子、伊藤雅絵、大橋充人、栗木梨衣	【文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業計画について】 28度計画している文化庁受託事業の内容について説明し、委員より事業計画に対するご意見を頂いた。
2	平成29年3月3日(金) 13時30分～15時30分	2時間	あいち国際プラザ	尾崎明人、松本一子、酒井美賀、米勢治子、大池由美子、伊藤雅絵、栗木梨衣	【事業報告と次年度の取組について】 28年度実施した文化庁受託事業について報告し、委員より実施後の成果に対するご意見を頂いた。

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	愛知県、県内市町村、市町村国際交流協会には、地域のボランティアや日本語教室への周知について協力を依頼した。また、日本語教育担当者には研修等へ参加を呼びかけた。 東海日本語ネットワークや日本語教育に携わる方には、専門的なスキルや知識の提供をお願いするとともに、運営委員として、専門的視点から事業全体について、ご意見を頂いた。 地域の日本語教室と、そこで活動するボランティアには、本事業に積極的に参加してもらい、日頃の教室活動において実践などを行った。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

実本実施体制の	運営委員会で実施計画と実施後の成果について意見を頂いた。事業実施にあたっては、2(2)の連携体制により、県内市町村や市町村国際交流協会、日本語教育の実績がある関係団体などとの連携・協力を図った。 特に平成28年度からは、市町村の国際交流協会にも運営委員として参画して頂き、より地域の日本語教室の現場に近い視点からの意見を頂くこととした。 東海日本語ネットワークや日本語教育に携わる方には、効果的な事業が実施できるよう、それぞれの専門を活かし、各取組に関わって頂いた。
---------	---

3. 各取組の報告

<取組1>									
取組1	取組の名称		「行動・体験型」プログラム研修の開催						
	取組の目標		地域日本語教室において、文化庁カリキュラム案を活用した「行動・体験型」の活動を企画し、実際に各教室で行えるようにする。また、教室実施後にはふりかえりを行い、ブラッシュアップする。実施した教室活動は事例集にまとめ、広く発信していく。 また、この研修をきっかけに、教室内のボランティア同士がコミュニケーションを図り、教室の目的を再確認するとともに、普段の教室活動を見直す場とする。						
	取組の内容		①行動・体験型プログラム研修の実施 地域で活動するボランティアを対象に、多文化共生に根ざした行動・体験型の日本語教室の活動づくりについての研修を行った。参加者は研修の中で活動を企画し、自分たちの日頃の教室活動で実践した。 ②モデル教室の実施 行動・体験型のモデル教室を実施し、研修受講者がモデル教室に参加・見学することで、受講者が自身の教室活動を企画するための理解を深める場とした。 ③活動事例集の作成 ①で行った実践活動の結果を事例集として冊子にまとめ、広く発信した。						
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		研修を通して地域の日本語教室とのつながりを構築するとともに、実践活動においても様々な地域住民と協働することから、地域ぐるみの推進体制につなげることができた。また、地域における日本語教室の意義、あり方を考えるきっかけにもなった。						
	取組による日本語能力の向上		行動・体験型の日本語教室活動を学ぶことで、多文化共生社会に対するボランティアの意識が高まり、「行動・体験型」の活動に限らず、学習者のニーズにあった教室活動へとつなげていくことが出来たので、学習者にとって、生活する上で使用する、より使える日本語を学ぶ機会となった。						
	参加対象者		研修：地域の日本語教室で活動しているボランティア 実践活動：研修受講者が所属する日本語教室の学習者 モデル教室：あいち国際プラザにほん語教室等の学習者				参加者数 (内 外国人数)		128人 (93人)
	広報及び募集方法		協会職員、コーディネーター等による研修の趣旨等の説明、ちらし、愛知県国際交流協会の機関誌、ホームページ、過去の受講者・教室からの周知、日本語教育ネットワークの勉強会や会議等での周知						
	開催時間数		総時間 83時間35分(空白地域0時間)			うち教室活動(実践活動+モデル教室)時間数：52時間35分			
	主な連携・協働先		県内日本語教室 市町村・市町村国際交流協会、東海日本語ネットワーク						
	開催場所		あいち国際プラザ および 各日本語教室						
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		28	13	-	13	6	1	1	3
		台湾(8人)、アメリカ(4人)、カナダ(2人)、ジンバブエ(2人)、モンゴル(2人)、ミャンマー(1人)、イギリス(1人)、メキシコ(1人)、コロンビア(1人)、ペルー(1人)、バングラデシュ(1人)、オーストラリア(1人)、ウクライナ(1人)、インド(1人)、フランス(1人)、日本(35人)							
実施内容									
①研修の実施									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		講師・指導者名	補助者等名
1	平成28年6月25日(土) 13:30～16:30	3時間	あいち国際プラザ	25	オリエンテーション 「行動・体験型」の活動とは？	講座の全体像を理解し、受講及び実践などへの心構えを確認する。 防災(地震)をテーマとした活動を例に、「行動・体験型」の活動について理解する。活動テーマの選び方を理解し次回につなげる。		(講師) 米勢治子	(講師補助) 酒井美賀 鈴木勝代 (作業補助) 山田美砂子
2	平成28年7月2日(土) 13:30～16:30	3時間	あいち国際プラザ	22	活動のつくり方 モデル教室見学のオリエンテーション	活動テーマからどのような手順を経て活動をつくるか、「行動・体験型」について、その具体的な活動の流れと素材・教材について理解する。 日本語支援活動における役割と着目点を理解する。		(講師) 米勢治子 (指導者) 岡部真理子 白石真理	(講師補助) 酒井美賀 鈴木勝代 (指導補助者) 安藤よし子 山田美砂子
3	平成28年7月30日(土) 13:30～16:30	3時間	あいち国際プラザ	26	実践活動計画を立てる	モデル教室見学をふりかえり、準備する事柄の手順や素材・教材について、また、活動の効果をどう評価するか考える。そして、第2回で学んだことをもとに実践可能な活動案をつくる。		(講師) 米勢治子	(講師補助) 酒井美賀 鈴木勝代
4	平成28年8月20日(土) 13:30～16:30	3時間	あいち国際プラザ	22	実践活動計画を共有しよう	各自(各教室)が持ち寄った活動案、素材・教材を共有・検討する。		(講師) 米勢治子	(講師補助) 酒井美賀 鈴木勝代

5	平成28年11月5日(土) 10:30～16:30	5時間	あいち国際 プラザ	22	実践活動のふりかえり	提出した活動事例集をもとに実践した活動をふりかえり、文化庁の「カリキュラム案」の考え方と「行動・体験型」の活動について理解を深める。	(講師) 米勢治子	(講師補助) 酒井美賀 鈴木勝代
6	平成28年11月19日(土) 10:30～16:30	5時間	あいち国際 プラザ	23	実践活動の発表 講座全体のふりかえり	ポスター発表を通して実践活動を共有・検討し、よりよい活動を目指す。講座全体をふりかえり、今後の活動に向けた実践について考える。	(講師) 米勢治子	(講師補助) 酒井美賀 鈴木勝代
②モデル教室								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	講師・指導者名	補助者等名
1	平成28年7月12日 (火) 13:30～15:30	1時間30分 (30分)	あいち国際 プラザ	学習者:11 受講者:11	「交通安全」について学ぼう!	イラストや写真を見ながら、交通ルールや「110番通報」について学ぶ。	(指導者) 白石真理	(指導補助者) 岡部真理子 山田美砂子 (モデル教室見学) 酒井美賀 鈴木勝代
2	平成28年7月19日 (火) 13:30～15:30	1時間30分 (30分)	あいち国際 プラザ	学習者:11 受講者:9	「交通安全」について学ぼう!	県の出前講座により、横断歩道のシュミレーターなどを使用し、交通安全について学ぶ。	(指導者) 白石真理	(指導補助者) 岡部真理子 安藤よし子 山田美砂子 (モデル教室見学) 酒井美賀
3	平成28年7月26日 (火) 13:30～15:30	1時間30分 (30分)	あいち国際 プラザ	学習者:6 受講者:11	「交通安全」について学ぼう!	交通安全のために気をつけたいことを、ボランティアと相談しながらポスターにまとめる。	(指導者) 白石真理	(指導補助者) 岡部真理子 安藤よし子 山田美砂子 (モデル教室見学) 酒井美賀 鈴木勝代
4	平成28年7月16日 (土) 10:30～12:30	1時間30分 (30分)	あいち国際 プラザ	学習者:9 受講者:12	あいち国際プラザを利用してみよう!	職員の話の聞いたり、建物の中を見て回ること、あいち国際プラザの事業内容を理解する。	(指導者) 岡部真理子	(指導補助者) 白石真理 安藤よし子 山田美砂子 (モデル教室見学) 米勢治子 酒井美賀
5	平成28年7月23日 (土) 10:30～12:30	1時間30分 (30分)	あいち国際 プラザ	学習者:8 受講者:11	あいち国際プラザを利用してみよう!	図書コーナーと多文化共生センターに行き、何があるか、何ができるか、どんな時に使えるかなどについて職員に聞き、実際に利用してみる。	(指導者) 岡部真理子	(指導補助者) 白石真理 安藤よし子 山田美砂子 (モデル教室見学) 米勢治子 酒井美賀
6	平成28年7月30日 (土) 10:30～12:30	1時間30分 (30分)	あいち国際 プラザ	学習者:9 受講者:12	あいち国際プラザを利用してみよう!	あいち国際プラザを紹介する内容のポスターを作成し、理解を深める。	(指導者) 岡部真理子	(指導補助者) 安藤よし子 山田美砂子 (モデル教室見学) 米勢治子 鈴木勝代 酒井美賀

※時間数に記載の()内の数字は、指導者、見学者(研修受講生)による教室活動のふりかえり時間を記載

③実践活動								
回数	開講日時	時間数	場所	学習者	取組テーマ	内容	実施教室	補助者等名
1-1	平成28年10月15日 (土) 10:30～12:00	1時間30分	あいち国際 プラザ	23	ごみの分別について 学ぼう	・「ごみの分別」に関心を持つ ・地域による違いや経験を話す ・写真を見て、ごみの話をする ・ふりかえりと次回の説明	あいち国際プラザ にほん語教室	(コーディネート) 酒井美賀
1-2	平成28年10月22日 (土) 10:30～12:15	1時間45分	あいち国際 プラザ エコパルなごや	23	ごみの分別について 学ぼう	・目的地まで移動する ・専門家の話を聞く ・ふりかえり	あいち国際プラザ にほん語教室	(コーディネート) 酒井美賀 鈴木勝代 (作業補助) 山田美砂子
1-3	平成28年10月29日 (土) 10:30～12:00	1時間30分	あいち国際 プラザ	23	ごみの分別について 学ぼう	・1・2回目の活動をふりかえる ・「ごみの分別」をやってみる ・分別に関するクイズで確認する ・ふりかえり	あいち国際プラザ にほん語教室	(コーディネート) 酒井美賀
2-1	平成28年9月24日 (土) 10:00～11:30	1時間30分	刈谷市国際交流 協会	5	母国にいる親しい人 に郵便物を送ろう	・国際郵便について学ぶ(出前講座) ・誰にどんな手紙を書くか決める ・各国の郵便ポストについて学ぶ ・今日学んだことをふりかえる	刈谷市国際交流協 会日本語教室	(実践活動補助) 宮川奈緒※
2-2	平成28年10月8日 (土) 10:00～11:30	1時間30分	刈谷市国際交流 協会	1	母国にいる親しい人 に郵便物を送ろう	・絵はがきの書き方を学ぶ ・国際航空郵便について学ぶ ・小包を送るためのラベルを書く ・今日学んだことをふりかえる	刈谷市国際交流協 会日本語教室	(コーディネート) 米勢治子 (実践活動補助) 伊藤詩織※
2-3	平成28年10月15日 (土) 10:30～12:30	2時間	刈谷市国際交流 協会、刈谷郵便 局	1	母国にいる親しい人 に郵便物を送ろう	・絵はがきを完成させる ・郵便局で国際郵便を送ってみる ・「季節の便り(年賀状等)」を学ぶ ・3日間の活動をふりかえる	刈谷市国際交流協 会日本語教室	(コーディネート) 鈴木勝代 (実践活動補助) 伊藤詩織※
3-1	平成28年10月1日 (土) 14:00～15:30	1時間30分	あいち国際 プラザ	15	食品表示の見方を学 ぼう	・表示って何？ ・表示の正しい見方を学ぶ ・グループでふりかえり	あいち国際プラザ にほん語教室	(コーディネート) 米勢治子
3-2	平成28年10月15日 (土) 14:00～15:30	1時間30分	あいち国際 プラザ	15	食品表示の見方を学 ぼう	・買物で失敗したこと、ありますか？ ・食品の空容器で体験母国の表示に ついて話す ・ふりかえり	あいち国際プラザ にほん語教室	(コーディネート) 米勢治子
3-3	平成28年10月22日 (土) 14:00～15:30	1時間30分	あいち国際 プラザ	15	食品表示の見方を学 ぼう	・クイズで復習 ・発表に向けたグループワーク ・グループ発表	あいち国際プラザ にほん語教室	(コーディネート) 鈴木勝代 (作業補助) 山田美砂子
4-1	平成28年10月21日 (金) 10:00～11:30	1時間30分	ふくらの家	8	自転車のルールを知 ろう	・自転車の事故の動画を見る ・自転車クイズでルールを学ぶ ・今日学んだことをふりかえる	江南市国際交流協 会「ワイワイ日本語 教室」	(コーディネート) 米勢治子 (実践活動補助) 伊藤詩織※
4-2	平成28年10月23日 (日) 10:00～12:00	2時間	布袋北部地区 学習等共用施設	6	自転車のルールを知 ろう	・自転車講習会で話を聞く ・今日学んだことをふりかえる	江南市国際交流協 会「ワイワイ日本語 教室」	(コーディネート) 鈴木勝代 (作業補助) 山田美砂子
4-3	平成28年10月28日 (金) 10:00～11:40	1時間40分	ふくらの家	3	自転車のルールを知 ろう	・ことばをふりかえる ・道路標識を見て回る ・グループで感想を伝え合う ・今日学んだことをふりかえる	江南市国際交流協 会「ワイワイ日本語 教室」	(コーディネート) 鈴木勝代 (実践活動補助) 伊藤詩織※

5-1	平成28年9月29日 (木) 10:30~12:00	1時間30分	あいち国際 プラザ	6	人を助ける	・救急車をどんな時に呼ぶか考える ・救急車を呼べる ・救急車が来るまでに何ができるか考 える ・今日学んだことをふりかえる	あかさたな 日本語教室	(コーディネー ト) 鈴木勝代
5-2	平成28年10月6日 (木) 10:30~12:30	2時間	あいち国際 プラザ	6	人を助ける	・AEDと心肺蘇生講習を受講する ・今日学んだことをふりかえる	あかさたな 日本語教室	(コーディネー ト) 鈴木勝代
5-3	平成28年10月13日 (木) 10:30~12:00	1時間30分	あいち国際 プラザ	6	人を助ける	・3日間をふりかえる ・学習したことは何かを整理する ・学んだことを人に伝える ・今日学んだことをふりかえる	あかさたな 日本語教室	(コーディネー ト) 鈴木勝代
6-1	平成28年9月23日 (金) 19:00~20:30	1時間30分	あいち国際 プラザ	7	地震について知ろう	・地震について知る ・わかったこと、思ったことを発表	あいち国際プラザ にほん語教室	(コーディネー ト) 米勢治子 鈴木勝代
6-2	平成28年9月30日 (金) 19:00~20:30	1時間30分	あいち国際 プラザ	7	地震について知ろう	・地震の備えについて知る ・わかったことを発表する	あいち国際プラザ にほん語教室	(コーディネー ト) 鈴木勝代
6-3	平成28年10月7日 (金) 19:00~20:30	1時間30分	あいち国際 プラザ	7	地震について知ろう	・第三者への情報提供ができる ・地震について発表する	あいち国際プラザ にほん語教室	(コーディネー ト) 鈴木勝代
7-1	平成28年9月15日 (木) 10:00~11:30	1時間30分	安城市文化 センター	8	地震に備える	・地震が起きるとどうなるかを知る ・各自の避難所を知る ・今日学んだことをふりかえる	にほんごひろば	(コーディネー ト) 酒井美賀 (実践活動補助) 伊藤詩織※
7-2	平成28年9月29日 (木) 10:00~11:30	1時間30分	安城市文化 センター	5	地震に備える	・前回の活動をふりかえる ・防災についての講習を聞く ・今日学んだことをふりかえる	にほんごひろば	(コーディネー ト) 酒井美賀 (実践活動補助) 宮川奈緒※
7-3	平成28年10月6日 (土) 10:00~11:30	1時間30分	安城市文化 センター	6	地震に備える	・これまでの活動をふりかえる ・ポスターを作成し、発表する ・非常食を食べてみる	にほんごひろば	(コーディネー ト) 酒井美賀 (実践活動補助) 伊藤詩織※
8-1	平成28年9月27日 (火) 13:30~15:00	1時間30分	港防災センター	14	家庭の防災	・名古屋市港防災センター見学 ・体験したこと、学んだことの確認	あいち国際プラザ にほん語教室	(コーディネー ト) 米勢治子 (実践活動補助) 伊藤詩織※
8-2	平成28年10月4日 (火) 13:30~14:00	30分	あいち国際 プラザ	14	家庭の防災	・防災センター見学の報告(確認を兼 ねた活動)	あいち国際プラザ にほん語教室	
8-3	平成28年10月11日 (火) 13:30~15:00	1時間30分	あいち国際 プラザ	14	家庭の防災	・自己紹介 ・災害への備えについて話を聞く(出前 講座) ・聞いた話の確認	あいち国際プラザ にほん語教室	(コーディネー ト) 米勢治子
8-4	平成28年10月18日 (火) 13:30~15:00	1時間30分	あいち国際 プラザ	14	家庭の防災	・避難ルートを確認する ・非常用持出袋を作ってみよう ・今日学んだことの確認	あいち国際プラザ にほん語教室	(コーディネー ト) 米勢治子 (作業補助) 山田美砂子

9-1	平成28年9月30日 (金) 12:20～14:30	2時間10分	あいち国際 プラザ	5	地震から身を守ろう	・地震を知る ・地震体験をする ・煙避難を体験する ・今日学んだことをふりかえる	あいち国際プラザ にほん語教室	(コーディネート) 米勢治子 (実践活動補助) 伊藤詩織※
9-2	平成28年10月7日 (金) 13:30～15:30	1時間30分	あいち国際 プラザ	5	地震から身を守ろう	・1日目の復習地震が起きたらどうする? ・寝ている場所は安全か? ・家具の固定と非常持出品 ・今日学んだことをふりかえる	あいち国際プラザ にほん語教室	(コーディネート) 米勢治子
9-3	平成28年10月14日 (金) 13:30～15:00	1時間30分	あいち国際 プラザ	5	地震から身を守ろう	・避難場所を確認する ・わかったことをまとめる ・学んだことを発表する	あいち国際プラザ にほん語教室	(コーディネート) 米勢治子

リソースルームの実践活動は、取組5に記載

(※は協会職員 事業担当として実践活動を補助した)

その他(事前説明)

より多くの日本語教室に参加してもらえるよう、協会職員やコーディネーター等が地域の日本語教室に出向き、研修の趣旨や内容について説明するとともに、地域の日本語教室の現状について、ご意見を伺った。

日時	訪問先教室名	場所	訪問者
5月6日(金) 17:45～18:15	みなみ文化日本語教室	南生涯学習センター	米勢治子※ 伊藤詩織※
5月8日(日) 9:30～10:00	日本語教室	碧南市文化会館	栗木梨衣※ 伊藤詩織※
5月8日(日) 12:30～13:00	かすがいふれあい教室	春日井市市民活動支援センター	栗木梨衣※ 伊藤詩織※
5月8日(日) 16:00～16:30	東海市国際交流協会 日本語教室	東海市商工センター	米勢治子※ 伊藤詩織※
5月12日(木) 17:30～18:00	黒川日本語教室	名古屋市総合福祉会館	宮川奈緒※ 伊藤詩織※
5月12日(木) 20:30～21:00	美和日本語教室	美和情報ふれあいセンター	米勢治子 栗木梨衣※
5月13日(金) 14:00～14:30	日本語習得支援教室	ふくらの家	伊藤詩織※
5月19日(木) 19:00～19:30	にほんごオアシス	パルティセと	米勢治子 伊藤詩織※
5月21日(土) 11:10～11:45	ウェルカムにほんご教室	長久手市役所西庁舎公民館	宮川奈緒※ 伊藤詩織※
5月21日(土) 18:30～19:00	日本語教室	知立市中央公民館	宮川奈緒※ 伊藤詩織※
5月22日(日) 9:30～10:00	日本語教室(さくら)	半田福祉文化会館	宮川奈緒※ 伊藤詩織※
5月22日(日) 12:00～12:30	日本語ひろば	一宮市向山公民館	宮川奈緒※ 伊藤詩織※
5月26日(木) 11:30～12:00	にほんごではなそう！ながくてクラス	長久手市国際交流協会	宮川奈緒※
5月28日(土) 9:30～10:00	JJにほんごくらぶ	菟目寺公民館	宮川奈緒※
5月28日(土) 11:45～12:15	「サルビアにほんごの会」日本語教室	安城市民交流センター	宮川奈緒※

(※は協会職員)

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【モデル教室 第1回 平成28年7月19日】

- 県の出前講座により、横断歩道のシュミレーターなどを使用し、交通安全について学んだ。
- 絵カードを提示しながら、今回の活動内容を説明
- パワーポイントを使用しながら、県内の交通事故の状況や交通ルールについての説明(県地域安全課)
- 「反射材」を配布し、使用の目的や方法について説明(県地域安全課)
- 「歩行環境シュミレーター」を使って、体験活動を実施(県地域安全課)
- ポータルフォリオを使用し、ボランティアと一緒に活動をふりかえる(新しく覚えたことばなど)。
- 指導者、受講者、コーディネーターによる活動のふりかえり



シュミレーター体験の様子

○取組事例②

【第8回 平成28年11月19日】

よりよい活動を目指して、ポスター発表や実践活動見学者からの感想のフィードバックなどを通してそれぞれの実践活動を共有・検討した。



(2) 目標の達成状況・成果

アンケートの結果からも、参考になったという意見が多く、今後の活動に生かしていきたいという意見も多かったことから、「行動・体験型」の教室活動を理解し、今後の教室活動を取り入れていくきっかけとなった。また、受講者だけでなくボランティア全員で、実践活動に取り組む教室が多かったため、教室活動に対する考え方や方法を、教室全体で共有する機会となった。

実践活動やモデル教室に参加した学習者からは、取り上げたテーマについて、初めて知って勉強になった、という感想が多く、日常生活につながる日本語の学習や知識習得として有意義であった。

(3) 今後の改善点について

研修期間が長いことが、研修に参加できない理由であったり、受講者からの意見としても多かったため、次年度以降、研修の期間について見直し、まずは多くの地域の日本語教室ボランティアに参加してもらい、「行動・体験型」について知ってもらう機会としたい。また、研修の一環としての実践活動についても、期間や内容等、制限が多かったために実現が難しかったこともあったようなので、実践活動については研修の一環とせず、実践活動を実施したいという場合には、サポートしていく形としたい。

＜取組2＞									
取組2	取組の名称		日本語教室実践講座の開催						
	取組の目標		愛知県内の市町村・国際交流協会と連携し、地域日本語教室の活動の見直しやステップアップ、新規教室立上げを目指す。また、講座を通じて市町村・国際交流協会と地域日本語教室の繋がりを強化するとともに、教室のボランティア同士が教室のあり方について話し合うきっかけ作りをする。						
	取組の内容		①ステップアップ講座 愛知県内にある日本語教室を対象に、教室の運営体制の向上や教室活動における課題の解決に向けた講座を開催した。講座の開催を開催地の市町村・協会と協働で行うことで、当協会と市町村・国際交流協会との繋がることができ、今後の協働や情報共有に活かしていくことが出来る。 (2時間×2回×3地域 犬山市国際交流協会、北名古屋市国際交流協会、東海市国際交流協会) ②立上げ講座 愛知県内で新規教室立上げを計画する地域を対象に、教室の立上げに必要な情報を学ぶ講座を開催する予定であったが、応募がなかったため、ステップアップ講座を当初予定の2地域から3地域に増やして開催した。						
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		県内市町村・国際交流協会と連携して開催することで、市町村・国際交流協会と密接に繋がりが、今後の協働や情報共有にも活かすことが出来るとともに、地域の日本語教室の現状について理解を深める機会となったことで、地域における日本語教育推進体制の取組みに活かすことが出来た。						
	取組による日本語能力の向上		地域の日本語教室のボランティアのスキルが向上したことで、学習者にとってもニーズにあった日本語を効果的に学ぶことができるようになった。						
	参加対象者		地域日本語教室で活動するボランティア(教室単位で実施)				参加者数 (内 外国人数)		30人 (0人)
	広報及び募集方法		ちらし、愛知県国際交流協会・該当市町村の機関誌・ホームページ、会議等での周知						
	開催時間数		総時間 12時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		①犬山市国際交流協会、②北名古屋市国際交流協会、③東海市国際交流協会						
開催場所		①犬山国際観光センター(フロイデ) ②北名古屋市コミュニティセンター ③東海市商工センター							
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		日本(30人)							
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		講師	補助者名
1	平成28年12月4日 (日) 13:30～15:30	2時間	犬山国際観光センター(フロイデ)	7	「犬山日本語教室」に課題解決に向けて(1)	グループワークで課題を設定し、その課題の要因を分析、解決策を検討した。		米勢治子	酒井美賀 山添裕美※ 宮川奈緒※
2	平成29年1月29日 (日) 13:30～15:30	2時間	犬山国際観光センター(フロイデ)	8	「犬山日本語教室」に課題解決に向けて(2)	グループワークで振り返りと課題解決に向けた実行プランを作成した。		米勢治子	酒井美賀 山添裕美※
3	平成29年1月28日 (土) 10:00～12:00	2時間	北名古屋市コミュニティセンター	7	「北名古屋市日本語教室」に課題解決に向けて(1)	グループワークで課題を設定し、その課題の要因を分析、解決策を検討した。		米勢治子	酒井美賀 山添裕美※
4	平成29年1月28日 (土) 13:00～15:00	2時間	北名古屋市コミュニティセンター	5	「北名古屋市日本語教室」に課題解決に向けて(2)	グループワークで振り返りと課題解決に向けた実行プランを作成した。		米勢治子	酒井美賀 山添裕美※
5	平成29年2月5日 (日) 10:00～12:00	2時間	東海市商工センター	14	「日本語教室」に課題解決に向けて(1)	グループワークで課題を設定し、その課題の要因を分析、解決策を検討した。		米勢治子	酒井美賀 宮川奈緒※
6	平成29年2月19日 (日) 10:00～12:00	2時間	東海市商工センター	15	「日本語教室」に課題解決に向けて(2)	グループワークで振り返りと課題解決に向けた実行プランを作成した。		米勢治子	酒井美賀 宮川奈緒※
(※は協会職員 事業担当として実施を補助した)									

(※は協会職員 事業担当として実施を補助した)

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【東海市国際交流協会 第1回 29年2月5日(土)】「日本語教室」の課題解決に向けて(1)
教室が抱えている課題を教室全体で共有するワークショップを実施した。

①現在の好ましくない状態を文章で表す。

②現在の好ましくない状態に対し、考えられる要因をすべて書き出す。また、その要因に対する目標を文章で書く。

③目標に対する解決法を文章で書く。



○取組事例②

【東海市国際交流協会 第2回 29年2月19日(土)】「日本語教室」の課題解決に向けて(2)
目標をイメージし、解決策を考えるワークショップを実施した。

①解決策を考える。解決の過程で生ずる問題も出てくるが、それらの問題の解決策も考える。

②実行プランを作る。

・プランの名称、目的、実施者、連携相手、スケジュールを具体的にすることで、実現する。

③「日本語教室ってだれのため? 何のため?」

東海市に在住する外国人の状況等からみた日本語教室に求められていることの講義。



(2) 目標の達成状況・成果

日頃の教室活動の中では、学習者への指導が中心となり、ボランティア同士が課題を共有し、じっくり話し合う時間がなかなか取れない現状がある中で、参加者のアンケート結果からも分かるように、今回の講座を通じてボランティア同士が課題を共有し、じっくりと考えを話し合う機会となったことは、とても有意義であった。

また、自分たちで課題を認識し、その要因を探り、解決策を考えるという、今回のワークショップの手法は、今後の教室で生じた課題に対する対処の手法としても活用することが出来るので、教室全体の活性化につながる事が出来た。

(3) 今後の改善点について

日頃の教室活動日とは、別の時間帯で講座を実施したため、講座への参加が出来ず、人数が少なくなってしまう回があった。

参加者が多いほど、様々な意見が出て、課題の共有やボランティア同士での交流につながると思うので、参加人数が多くなる日時を設定するようにしたい。

＜取組3＞									
取組3	取組の名称		成果発信報告会						
	取組の目標		愛知県内の市町村・国際交流協会の日本語教育担当者や日本語ボランティアに、当協会が実施するプログラム研修等の文化庁受託事業について発信し、それぞれの地域や教室での活動に役立ててもらうことにより、コーディネーター的役割を果たせる人材を増やしていく。						
	取組の内容		①28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業について 平成28年度の文化庁受託事業を始めとする日本語教育事業について報告した。また、取組①で作成したポスターを掲示した。 ②講演「ときにはこんな学習方法！」 チラシやパンフレットなど身近な素材を活用したり、アクティビティを通じての発話の練習をするなど、取組1とは異なる手法の「行動・体験型」学習方法について紹介した。						
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		当協会と県内市町村・国際交流協会や地域の日本語教室ボランティア、日本語教室同士が多く集まる機会となった。						
	取組による日本語能力の向上		地域の日本語教室のボランティアのスキルの向上につながったことで、学習者にとっても、ニーズにあった日本語を効果的に学ぶことができるようになった。						
	参加対象者		県内市町村・国際交流協会日本語教育担当者、地域の日本語教室ボランティア				参加者数 (内 外国人数)	58人 (0人)	
	広報及び募集方法		ちらし、ホームページ、日本語教室 等での周知						
	開催時間数		総時間 2 時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		地域日本語教室、市町村・国際交流協会						
	開催場所		あいち国際プラザ						
	参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ
日本(58人)									
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		講師	補助者名
1	平成29年2月15日 (水) 14:00～16:00	2時間	あいち国際プラザ	58	ときにはこんな学習方法！	チラシやパンフレットなど身近な素材を活用したり、アクティビティを通じての発話の練習をするなど、「行動・体験型」学習方法の紹介		薄井廣美	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業について(報告) 29年2月15日】

取組1～5の実施内容について報告するとともに、取組1で行った実践活動の結果をとりまとめた活動事例集を紹介した。また、取組1で作成したポスターを会場に掲示し、参加者にご覧頂いた。



○取組事例②

【講演「ときにはこんな学習方法！」 29年2月15日】

身近な素材やアクティビティを通じた発話の練習方法といった、すぐに役立ちそうな教材について、これまでの講師の経験などを踏まえて、多数ご紹介頂いた。



(2) 目標の達成状況・成果

取組1で行った「行動・体験型」プログラム研修は、行動・体験を通じて日常生活の中で役立つ日本語を学ぶという手法を企画し実践してみるという内容であったが、研修期間が長いこともあり、受講者からは、もう少し手軽なやり方が知りたいといった感想が多く寄せられた。こうした声を踏まえ、今回の内容を企画し、先着順で募集したところ、早い段階で定員を上回る応募があった。また、参加者アンケートからも、日頃の教室活動でやってみようと感じてもらえたことで、教室活動を振り返り、教室活動の活性化につなげることが出来た。

(3) 今後の改善点について

限られた時間内で、大変多くの教材を紹介してもらったために、ひとつひとつについて、もう少し具体的な利用方法を紹介頂ける時間があるとよかった。また、大変多くの申し込みがあった中で、定員を上回った段階で募集を締め切ってしまったが、後日、数件欠席連絡があったため、次回実施する際には、キャンセル待ちで受け付ける形としたい。

＜取組4＞										
取組4	取組の名称		日本語ボランティア入門講座の開催							
	取組の目標		外国人と日本人とが、ともに地域で暮らす住民として共存できる「多文化共生社会」の実現を図るため、多文化共生の地域づくりにつながる日本語教室活動ができる日本語教育ボランティアを育成する。また受講修了者について、当協会のプラザにほんご教室や県内の地域日本語教室での実際の活動に繋げる。							
	取組の内容		日本語教育ボランティアの育成事業として、日本語教育ボランティア未経験者・初心者向けの講座を開催した。講座では、地域の外国人の状況や日本語教室の役割といった背景的な部分から、多文化共生につながる日本語学習支援方法や活動のシュミレーション、標準的なカリキュラム案など、実践的な内容も学ぶとともに、日本語教室の見学も行い、地域日本語教室での活動に役立つ講座となった。							
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備		日本語ボランティア未経験者を対象に行うことで地域の日本語教室で活動するボランティアを増やすとともに、広く県民に多文化共生や日本語教育への理解を広めることができた。							
	取組による日本語能力の向上		研修を受けた日本語ボランティアが地域の日本語教室で活動することにより、地域の日本語教室が活性化するとともに、学習者の多様なニーズに応えられる体制ができた。							
	参加対象者		日本語教育ボランティア未経験者・初心者					参加者数 (内 外国人数)	36人 (0人)	
	広報及び募集方法		ちらし、愛知県国際交流協会の機関誌、ホームページ、会議等での周知							
	開催時間数		総時間 17時間30分(空白地域 時間)							
	主な連携・協働先		東海日本語ネットワーク							
	開催場所		あいち国際プラザ							
	参加者の出身・ 国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
-			-	-	-	-	-	-	-	
日本(36人)										
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		講師	コーディネーター	
1	平成28年6月4日 (土) 10:30～12:30	2時間	あいち国際プラザ	33	地域の外国人の現状 日本語ボランティアとは	講座全体の把握するとともに、日本や愛知県内にどのような外国人がいるかを学ぶ。		鈴木勝代	—	
2	平成28年6月11日 (土) 10:30～12:30	2時間	あいち国際プラザ	32	日本語教室の活動紹介	日本語教室と日本語学校の違いや、日本語教室で外国人に伝えたいこと、外国人が日本語教室に来る理由を学ぶ。		鈴木勝代	—	
3	平成28年6月13日 (月)～7月15日(金)	2時間	あいち国際プラザ	—	日本語教室見学(各自)	受講者自身が興味のある日本語教室へ連絡し、見学。その内容を記録する。		—	—	
4	平成28年6月18日 (土) 10:30～12:30	2時間	あいち国際プラザ	32	外国につながる子どもたち	外国につながる子どもたちの状況や愛知県や市町の受け入れ施策について学ぶ。		松本一子	—	
5	平成28年6月25日 (土) 10:30～12:30	2時間	あいち国際プラザ	30	多文化共生の地域づくりにつながる日本語学習支援方法①	多文化共生につながる学習支援方法とはどのようなものか、体験をしながら考える。		衣川隆生	鈴木勝代	
6	平成28年7月2日 (土) 10:30～12:30	2時間	あいち国際プラザ	29	多文化共生の地域づくりにつながる日本語学習支援方法②	多文化共生につながる学習支援方法とはどのようなものか、体験をしながら考える。		衣川隆生	鈴木勝代	
7	平成28年7月9日 (土) 10:30～12:30	2時間	あいち国際プラザ	22	多文化共生の地域づくりにつながる日本語学習支援方法③	地域日本語教室の特徴や地域日本語教育のあり方について学ぶ。		米勢治子	—	
8	平成28年7月16日 (土) 10:30～12:30	2時間	あいち国際プラザ	24	日本語教室見学の共有 今後の活動に向けて	日本語教室見学や講座を通しての感想の共有。		鈴木勝代	—	
9	平成29年2月15日 (水) 12:20～13:50	1時間30分	あいち国際プラザ	7	フォローアップ交流会	日本語教室活動のお悩みや近況報告など、情報交換。		鈴木勝代	—	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第8回 平成28年7月16日】

第3回の講座は、受講者が地域の日本語教室に連絡をとり見学してくるというものであったが、その様子や感想を受講者で共有するとともに、今後の活動に向けた想いを話し合った。

- ・3教室程度ずつ見学をすることで、教室による違いなどを知る。
- ・自分で見学していない教室についても、話を聞くことで知ることができる。



○取組事例②

【第9回 平成29年2月15日】

日本語教室活動のお悩みや近況報告など、情報交換を行った。

- ・一人ずつ、現在の活動や活動における悩みなどを共有し、解決方法などをコーディネーターや他の参加者と考えた。



(2) 目標の達成状況・成果

日本語ボランティアとして活動をするにあたって、心構えや学習者との接し方を学べてよかったという声が多く、講座を通じて、地域の日本語教室の活動の意義を伝えることが出来た。また、アンケート回収者のうち日本語ボランティア未経験であった受講者については、全員が今後実際に活動したいと回答しており、地域の日本語教室で活動する日本語ボランティア育成につながった。

(3) 今後の改善点について

講座では、地域の外国人の状況や多文化共生につながる日本語教室の考え方、学習者との接し方や学習方法の提示などを行なったが、もっと具体的な、場面に応じた活動方法を知りたいという意見があった。そうした内容は、入門講座で取り上げることは難しい部分もあるが、次のステップの研修として実施を検討していきたい。

<取組5>

取組5

取組の名称

リソースルーム発「使える！日本語」教室

取組の目標

外国人と日本人とが、ともに地域で暮らす住民として共存できる「多文化共生社会」の実現への一環として、多文化共生の地域づくりにつながる行動・体験型日本語教室を実施する。従来の日本語教室とは違う形態の日本語教室をモデル的に行うことによって、ボランティアに日本語教室のあり方を考えてもらうきっかけにする。

取組の内容

当協会のリソースルーム運営ボランティアが講師となり、テーマに沿った日本語を学ぶことができる行動・体験型教室を開催した。開催後、活動内容を指導者と教室見学者とでふりかえり、「行動・体験型」教室活動のノウハウを蓄積し、地域の日本語教室に発信した。

空白地域を含む場合、空白地域での活動

取組による体制整備

リソースルーム運営ボランティアがリソースルームで新たに行動・体験型教室を実施することで、地域の日本語教室にノウハウやアイデア、情報を発信していくことができた。こうした取組みは、地域の日本語教室の活性化やボランティアならではの強みを活かした活動につながった。

取組による日本語能力の向上

学習者は生活で使える生きた日本語を学ぶことができた。1回で完結する形で実施することで、仕事や子育てなどで継続的に教室に通えない外国人住民も参加しやすい形となった。

参加対象者

愛知県内在住の外国人、リソースルームボランティア

参加者数
(内 外国人数)

8人
(8人)

広報及び募集方法

ちらし、愛知県国際交流協会の機関誌、ホームページ、会議等での周知

開催時間数

総時間 8時間30分（空白地域 時間）

うち教室活動時間数:8時間30分

主な連携・協働先

リソースルームボランティア・日本赤十字社愛知県支部

開催場所

あいち国際プラザ

参加者の出身・
国別内訳
(人数)

中国

ベトナム

ネパール

韓国

フィリピン

インドネシア

タイ

ブラジル

2

2

-

1

2

-

-

-

ミャンマー(1人)

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年9月3日(土) 13:00～16:00	3時間	あいち国際プラザ	3	AEDを使えるようになる	・人を助ける重要性を知る ・AEDについてわかったことを確認 ・心肺蘇生講習(含AED講習) ・ワークシート記入 ・ふりかえり(気付いたことを話す)	石川幸代 板倉和子 伊藤千恵美 小川千鶴 杉山明美	酒井美賀
2	平成28年9月6日(火) 13:00～16:00	3時間	あいち国際プラザ	1	AEDを使えるようになる	・人を助ける重要性を知る ・AEDについてわかったことを確認 ・心肺蘇生講習(含AED講習) ・ワークシート記入 ・ふりかえり(気付いたことを話す)	石川幸代 板倉和子 奥津愛子 山田宏子	酒井美賀
3	平成28年12月13日 (火) 13:30～16:00	2時間30分	あいち国際プラザ	4	AEDを使えるようになる	・人を助ける重要性を知る ・AEDについてわかったことを確認 ・心肺蘇生講習(含AED講習) ・ワークシート記入 ・ふりかえり(気付いたことを話す)	石川幸代 板倉和子 伊藤千恵美 奥津愛子 山田宏子	酒井美賀

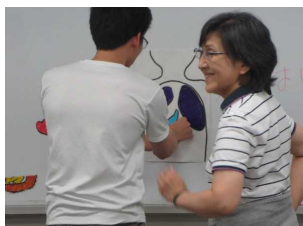
(1) 特徴的な活動風景

○取組事例①（3回とも同テーマのため9月3日分のみ掲載）

【第1回 平成28年9月3日】

日本赤十字社愛知県支部のAED講習を受けながら、「助けてください」「119番をお願いします」などの日本語を学ぶとともに、AEDの使い方や心肺蘇生の方法を学んだ。

- ・人を助ける重要性を知る
- ・AEDについてわかったことを確認
- ・心肺蘇生講習（含AED講習）
- ・ワークシート記入
- ・ふりかえり（気付いたことを話す）



(2) 目標の達成状況・成果

学習者は、テーマに関連して、AEDの使い方や心肺蘇生の方法を学びながら、人に助けを求める際の日本語などを学ぶことができた。また、ボランティアは、学習者が日本で生活する上で必要なことは何か、という視点を重視し、教室活動を考えるようになったとともに、外部協力者と協働するときに気を付けることなどが分かり、外部協力者は、外国人に対して説明する場合に気を付けなければならない点などに意識をもってもらえる機会となった。こうした一連の取組みを、リソースルームとして、他の地域の日本語教室に発信していくことで、地域の日本語教室の活性化につなげていくことができると考えている。

(3) 今後の改善点について

人に助けを求めたり、人を助けたりすることは、どこで生活していく上でもとても大切なことだが、広報の期間が短くなってしまったこともあり、学習者がなかなか集まらなかった。広報については、期間を十分に取るようにするとともに、既存の教室ちらしに併せて掲載するなど、広報の仕方を工夫し、学習者に情報が届くようにしたい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

- 地域の様々な主体が連携・協働して多文化共生社会に向けた「地域における日本語教育」を推進していく基盤をつくること
- 日本語教育指導に携わるボランティア等がより効果的な教室活動を実施できるようになること
- 県内市町村と連携をとり、地域に必要な日本語教育のコーディネーターとしての役割を担う人材を育成すること

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

- ・「行動・体験型」の手法として、取組1としては地域の人を巻き込んで日常生活の中で役立つ日本語を学ぶ方法を、取組3としては身近な素材を活用することで「行動・体験型」につなげるという方法を学ぶ機会となった。異なる二つの「行動・体験型」の手法を示すことで、地域の日本語教室で活動するボランティアが、日頃の教室活動で、学習者にとってより効果的となる学習方法を取り入れるきっかけを作ることが出来た意義は大きい。また、事業全体として、「行動・体験型」についてまとまりをもって学ぶ機会とすることが出来た。
- ・取組を通じ、受講者が他の日本語教室の状況を知ったり、情報交換をする場となり、お互いが刺激を受け、日頃の教室活動へ反映させるなど、教室活動の活性化につなげることが出来た。
- ・運営委員からは、「事業を通じ少しずつ考え方が浸透してきていると感じる」、「粘り強く続けていくことが大切」という意見があり、継続して事業を行うことの必要性について提言があった。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

- ・市町村や市町村国際交流協会を通じて、地域の日本語教室への参加呼びかけを行ったほか、地域の日本語教室に出向いて研修の趣旨を説明することで、地域の日本語教室の現状を、直接に知ることが出来る機会となった。
- ・東海日本語ネットワークや日本語教育関係者と連携したことで、地域日本語教室の現状や専門知識を、本事業の各取組に活かして実施することが出来た。
- ・特に取組1「行動・体験型」プログラム研修では、地域の教室で実践する内容としたことで、地域の日本語教室はもとより、地域の方との協働のもと、取組を実施することとなり、地域の方に、外国人住民の状況等を理解してもらう機会となった。

(4) 事業実施に当たったの周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

- ・当協会機関誌への掲載、日本語教室や関係団体へのチラシ配布、ホームページやメールマガジンでの発信を行ったが、特に、地域日本語教室へ出向き説明等を行い、参加を呼びかけたことは、地域の日本語教室ボランティアに事業を直接説明できる機会となり、事業に対する直接の意見を伺うことの出来る機会となった。
- ・事業の成果発信としては、成果発信報告会での報告を始め、東海日本語ネットワーク主催のシンポジウムにおけるポスター発表や当協会パネル展示コーナーでの掲示等を行った。

(6) 改善点、今後の課題について

- ・特に、取組1「行動・体験型」プログラム研修は、今回で3年目となり、地域の日本語教室においても、取組の趣旨やその手法については、少しずつ理解が浸透してきたように感じる。一方、これまで3年間にわたり実施してきた講座のやり方は、講座の期間が長く、持ち帰ってやってくる宿題も多く、負担が大きいという声が多く寄せられているため、これまでのやり方は一旦区切りとするものの、それぞれの教室で教室活動をする上で、「行動・体験型」の手法を取り入れ実施していけるきっかけとなるような研修内容を考えていきたい。

(7) その他参考資料

- ・取組1～5 チラシ
- ・取組1～4 アンケートとりまとめ
- ・取組1 活動事例集